

第6学年*組 国語科学習指導案

指導者 関 浩史

R 5 研修センター長期研修

1 単元名 自分の考えを伝えるプレゼンテーションをしよう（町の未来をえがこう）

2 本単元の目標

- （1）情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。〔知識及び技能〕（2）イ
- （2）目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A（1）ア
- （3）資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A（1）ウ
- （4）言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

市長に、よりよい**市にするための自分の考えをプレゼンテーションする。

（関連：〔思考力、判断力、表現力〕A（1）ア、ウ）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 （（2）イ）	①「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。 （A（1）ア） ②「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 （A（1）ウ）	① 自分の考えが伝わるように、粘り強く必要な情報を見付けたり、表現を工夫したりしながら、学習の見通しをもってプレゼンテーションの作成や発表をしようとしている。

5 単元について

（1）教材観

本教材「町の未来をえがこう」は、地域の町作りについて調べ、調べたことを基に考えを広げて、目指す町の姿について提案するプレゼンテーションを作成する教材である。総合的な学習の時間で取り組んでいる、**市の未来について考え、自分の考えを市長にプレゼンテーションをする活動と関連付けて取り組むことで、目的意識や相手意識を明確にすることが期待できる。また、プレゼンテーションの作成を通して、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして自分の考えが伝わるように表現を工夫することの重要性を学ぶことができる教材であると考え。

（2）児童観

本学級の児童に対して、目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力に関する実態調査（令和5年*月実施、第6学年*組*人）を行った。スピーチメモの分析による実態調査では、自分の考えを伝えるために必要な材料を十分に集められない児童や、材料の分類や関係付けが不十分な児童が*人であった。また、相手を意識せずに話すなど、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができない児童は*人であった。このことから、目的や意図に応じて、内容を検討することや自分の考えを伝えるために表現を工夫することに課題があると分かった。そのため、目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力を育てる学習指導を行う必要があると考える。

(3) 指導観

本単元では、総合的な学習の時間と関連付けを図りながら、よりよい**市の未来について考え、市長に自分の考えをプレゼンテーションするという言語活動を設定する。まず、「だれに何を伝えるのか。」を確認し、作成するための相手と目的を理解する。そして、教師が作成したグッドモデルとバッドモデルを比較することで、目指すプレゼンテーションの姿を明確にし、「プレゼンチェックシート」を作成する。次に、総合的な学習の時間において調べてきたテーマから、自分のテーマを決める。「プレゼン見える化シート」を活用して、目的や意図に応じてプレゼンテーションに必要な材料を可視化し、集めた材料を内容ごとにまとめたり、関連付けたりして内容を検討する。さらに、「プレゼンチェックシート」を活用しながら、友達とアドバイスを出し合う活動を行い、内容や表現を見直すことで自分の考えが伝わるプレゼンテーションを目指していく。また、これらの学習活動全体の中で「やってみる・振り返る・再考する」の学習サイクルを基本とした振り返りを行うことで、振り返りの中で出た考えや疑問を次の学習へ生かしていけるようにする。これらの手立てを講じることで、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する力を育てることができるのではないかと考える。

5 単元の指導計画（10 時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	課題 自分の考えが伝わるプレゼンテーションにするために、大切なことは何だろう。 ・学習の見通しをもつ。 ・プレゼンテーションの相手と目的を理解する。 ・グッドモデルとバッドモデルの比較をする。 まとめ 自分の考えが伝わるプレゼンテーションするには、伝える相手と目的を意識することが大切である。 ・学習を振り返る。			○	・学習計画表を用いて、単元の目標や総合的な学習の時間との関連、単元の流れと振り返りについて説明し、見通しがもてるようにする。 ・モデルを比較して、良い点や改善点を個人からグループ、全体へと共有するようにする。 態①：プレゼンテーションを作成する過程について見通しをもっているか見取り、つまづいている児童には、学習計画表を活用することで見通しを確認していくことを助言する。 【観察、ノートの記事、振り返り】
	2	課題 自分の考えが伝わるプレゼンテーションにするために必要なことは何だろう。 ・自分の考えが伝わるプレゼンテーションの観点を考える。 まとめ 自分の考えが伝わるプレゼンテーションするには、話す内容や話し方を工夫することが必要になる。 ・学習を振り返る。		○		・前時で確認した内容から、観点を作成するようにする。 ・交流する際には、個人、ペア、グループを児童が選択して考えられるようにする。 ・作成した観点を生かして、今後プレゼンテーションを作成していくこと伝える。 思①②：自分の考えが伝わるプレゼンテーションにするための観点を考えられているか見取り、つまづいている児童には、前時の学習を振り返って、グッドモデルとバッドモデルを比較した際に出た意見等に注目するよう助

					言する。 【観察、ノートの記述】
2	3	課題 集めた材料を整理しよう ①どんな資料を集めたらよいだろう。 ・総合的な学習の時間で調べたテーマから、自分のテーマを決定する。 ・材料集めシートに、自分の考えを伝えるための材料(自分の意見やグラフなど)を集める。 ・材料を整理するためのキーワードについて話し合う。 まとめ 自分の考えを補足したり、説明したりするような材料を集めたらよい。 ・学習を振り返る。		○	・「市長に、よりよいつくばみらい市にするための提案をする。」ことを確認し、相手と目的を意識付ける。 ・決めたテーマの材料について、可視化するよう助言する。 ・整理するためのキーワードを話す際に、自分の思いが込められるようなキーワードにするように助言する。 ・キーワードを全体で共有できるようにする。 思①：材料を集められていない児童には、友達の集め方を参考にしたり、ペアで話し合ったりしながら、テーマに対する自分の考えや写真、グラフなどを集めていくことを助言する。 【ワークシート】
4 検 証 授 業 ①		目標：目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりすることができる。 1 学習課題を確認する。 課題 集めた材料を整理しよう② 材料を、どのように分類したり、つないだりするとよいだろう。 2 プレゼン見える化シート①に情報を整理する。 ・可視化した材料を座標軸に貼り付ける。 ・材料を分類したり、つないだりする。		○	・相手と目的を確認する。 ・可視化が終わっていない児童は、続きを行う。 ・座標軸の使い方について確認する。 ・材料を動かしていく際に、座標軸のキーワードを意識して動かしていくようにする。 ・自分の考えの付箋と補足や説明の資料は、近くに配置するようにする。 知①：自分の考えと集めた材料を図示化しているかについて見取り、図示化が難しい児童には、参考例を確認しながら取り組むよう助言する。 【ワークシート】 思①：自分の考えを伝えるための材料を分類したり、関係付けたりしているかについて見取り、つまづいている児童には、材料の特徴や内容を捉えて取り組むよう助言する。 【ワークシート】

		3 グループで集めた材料を分類したり、関係付けたりすることについて話し合う。 まとめ 自分の考えを伝えるための情報を、同じ内容同士でまとめたり、それらをつないだりするとよい。 ※材料同士がくわしくな って説得力を高められる。 4 学習を振り返る。			・4人グループで話し合った後、全体で共有する。 ・振り返りを書く際に、次にどう生かしていきたいかという観点で書くようにする。
2	5	課題 集めた材料を整理しよう③ 自分の考えを伝えるには、どのような順番にすればよいだろう。 ・座標軸で考えたことから、マトリックスを使ってプレゼンテーションの順番を考える。 まとめ 自分の考えを相手に伝えるためには、目的や意図を意識した順番にするとよい。 ・学習を振り返る。	◎	◎	・座標軸に分類した自分の材料の中から、市長に提案することを決めるように助言する。 ・自分が選んだ型の中で、提案したいことをまとめたページを作るように助言する。 思①：目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして材料を整理している。 【ワークシート】 知①：情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 【ワークシート】
3	6	課題 自分の考えが伝わるスライドにするためには、何を意識するとよいだろう。 ・プレゼン見える化シート②をもとに、プレゼンテーションを作る。 まとめ 自分の考えを相手に伝えるスライドを作成するには、図で表して分類や関連付けすることや順番に並べて考えることを意識するとよい。 ・学習を振り返る。			・見える化シート②が終わっていない児童には、続きを考えシートを完成できるようにする。 ・プレゼンテーションを作る際に、見える化シート②で考えた内容を生かして作るよう助言する。 ・自分たちで考えた観点が書かれたプレゼンチェックシートの内容の部分を参考にして作成するよう助言する。
7 検 証 授		目標：アドバイスを出し合う活動を通して、自分の考えが伝わるように内容や話し方を工夫することができる。			

業 ②	1 学習課題を確認する。 課題 どうしたら自分の考えが伝わるプレゼンテーションになるだろう。 2 グループでお互いのプレゼンテーションを確認し合う。 - 友達とプレゼンテーションを見せ合ってアドバイスをし合う。 - 動画を撮影し、自分のプレゼンテーションを見直す。 3 アドバイスを取り入れて、改めてプレゼンテーションを作成する。 まとめ 自分の考えが伝わるプレゼンテーションにするには、内容や話し方を検討することが大切になる。 4 学習を振り返る。		○	- 作成した「プレゼン確かめシート」をもとに、アドバイスを出し合うようにする。 - もらったアドバイスを共有することで、より良いプレゼンテーションを考えられるようにする。 - グループで動画を撮影し、自分のプレゼンテーションに生かせるようにする。 思②：自分の考えが伝わるように表現を工夫できているか見取り、困難が見られる児童には、もらったアドバイスや動画を見て改善できそうなところから取り掛かるよう助言する。 【ワークシート、スライド】 - 話す内容や話し方に注意して、改めてプレゼンテーションを作るようにする。 - 振り返りを書く際に、次にどう生かしていきたいかという観点で書くようにする。
8	課題 どのような点を修正すれば自分の考えが伝わるプレゼンテーションになるだろう。 - アドバイスを生かして、プレゼンテーションの手直しをする。 - 発表練習をして、より良い発表を目指す。 まとめ 自分の考えが伝わるプレゼンテーションにするには、内容ごとの関係性と表現の仕方を修正すればよい。 - 学習を振り返る。			- 前時にももらったアドバイスや動画を参考に、プレゼンテーションの内容や話し方を工夫するよう助言する。 - チェックシートを参考に、直したところを改めて確認するよう助言する。 - 前回のグループと違う友達と交流し、プレゼンテーションを見せ合って、よりよいプレゼンテーションを目指すようにする。

4	9 10	課題 プレ発表会をしよう①② 友だちはどのような工夫をしているだろうか。 ・発表をする。 ・友達の発表をよく聞いて、良かった点や工夫されていた点を伝えよう。 まとめ 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すると自分の考えが伝わるプレゼンテーションになる。 ・単元全体を振り返る。			◎ ・話し手は何を提案したいのか聞くようにする。 ・友達の発表のよかった点や工夫されていた点についてメモを取り、具体的に伝えるようにする。 思②：資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 【プレゼンテーション】 ◎ 態①：プレゼンテーションの作成で学んだ情報を分類したり関連付けたりして内容を検討し、表現を工夫したことを次の学習に生かそうとしている。 【観察、プレゼンテーション、振り返り】
---	---------	--	--	--	---